

## 課題

## ○読書バリアフリー法の公布・施行

読みに困難のある人々に、アクセシブルな電子書籍等が提供されることが基本理念

## ○通常の小中学校には、読み書きに著しい困難を示す児童生徒:3.5%

→合理的配慮を提供する必要がある。

## ○マルチメディアDAISY図書

→アクセシブルな電子書籍等の一つ

読書バリアフリー法の理念に則り、読みに困難のある児童生徒に対して、地域図書館や学校図書館がマルチメディアDAISY図書を提供することが必要



## 事業のねらい

## 目的1

通常の小中学校の学校図書館の学校司書等を対象に読みに困難のある児童生徒の支援における背景法律や図書館の役割に関する研修を実施すること

## 目的2

マルチメディアDAISY制作研修を受講した学校司書がマルチメディアDAISY図書を制作し、学校図書館でマルチメディアDAISY図書を提供するモデルを構築すること

## 主な実施内容

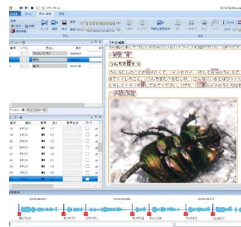
1. 小中学校の学校司書等への研修の実施  
テーマ：読みに困難のある子どもに対する図書館での支援  
－背景と音声教材について－
2. 小中学校の学校司書への音声図書の制作支援と  
学校図書館での提供支援

## 1. 小中学校の学校司書等への研修の実施



読みに困難のある子どもの関連法律とともに、視覚障害者用データ送信などのサービス、読みに困難のある子どもの図書を紹介

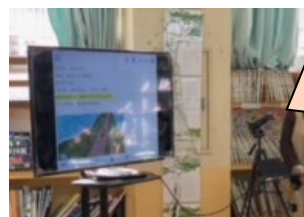
## 2-1. 小中学校の学校司書への音声図書制作支援



音声図書の制作画面

協力市の小中学校学校司書12名を3グループに分け、3冊のマルチメディアDAISY図書を制作した。グループ内でテキストデータ制作係、画像データ制作係等の役割を作り、制作していった。

## 2-2. 小学校の学校図書館における音声図書の提供



小学校1校で、7日間にわたって、児童延べ710名に対して、制作したマルチメディアDAISY図書の閲覧を実施した。令和5年度までに制作した20冊をタブレット等を用いて閲覧した。閲覧の際は「ChattyBooks」を用いた。

## 成果

## 1. 学校司書等への研修の実施

延べ37名の参加があった。研修後にアンケートを実施し、分析した（5件法）。ほとんどの項目で肯定的な意見が得られたものの、サピエ図書館の登録等の項目は他の項目と比較して平均点が低かった。今後は、実際に自ら登録画面を操作するなどの工夫が必要であると考えられる。

## 2-1. 学校司書への音声図書制作支援

グループごとに「うんちレストラン(ポプラ社)」「ニーハオ！ふたごのパンダ(ポプラ社)」「むしをたべるくさ(ポプラ社)」を制作した。学校司書への制作支援を繰り返すことで、それぞれの役割を意識しながら制作できるようになってきた。

## 2-2. 小学校における音声図書の提供



「図書」の授業での児童らの閲覧の様子  
「いろいろな本が読めてうれしい」という声も

アンケートより、多くの児童がマルチメディアDAISY図書に肯定的な感想を抱いていた。

## まとめ

- 音声図書の制作研修等を受けることで、学校司書が児童の実態に応じた図書の提供を行うことにつながった。
- 今後は複数の学校で音声図書を提供していくことが課題である。

## 課題

- 読書バリアフリー推進に係る「普及啓発と連携体制の促進」に向けた障がい者等向けサービスの周知
- 読書バリアフリー推進に関わる人材の養成

## 事業のねらい

県が主体となって研修会を実施することで、読書バリアフリー推進に関わる新たな人材の確保や、知識・技術の向上等を図るとともに、公共図書館やサピエ図書館等の各図書館の役割や連携の在り方等を読書バリアフリー関係者が一同に会して学ぶことで、連携体制の強化につなげる。



【第1回研修会における「読書バリアフリー関係資料展示」の様子】

## 実施内容

- 県が主催する2回の研修会を実施
- 第1回熊本県読書バリアフリー推進研修会  
内容：実演、講演、事例発表、グループ協議等
- 第2回熊本県読書バリアフリー推進研修会  
内容：講演、ワークショップ3種（「布の絵本製作体験」「点字訳体験」「手話による絵本の読み聞かせ体験」）

### ①第1回研修会：講演

演題：公共図書館・学校図書館・点字図書館が連携して読書バリアフリーの取り組みを～サピエ図書館・国立国会図書館を活用してサービス充実～



講師に埼玉県立久喜図書館司書主幹 佐藤 聖一氏をお迎えし、読書バリアフリー法や障害者サービスについて、障がい者の視点から具体的にわかりやすく説明していただいた。

### ②第2回研修会：読書バリアフリーワークショップ「手話による絵本の読み聞かせ体験」

講師：手話による絵本の読み聞かせグループ てとてとてんとうむし



手話による読み聞かせの体験を通して、表情よく伝えることの楽しさを感じることができた。現在読み聞かせの活動を行っている受講者は、自身の活動に活かしたいと語った。

## 成果

- 県内の読書バリアフリー推進に関わる様々な所属の関係者が一同に会して学び、交流を深めることで連携体制の強化につながった。
- ワークショップを実施したことでアクセシブルな書籍等の製作やバリアフリーの視点を踏まえた読み聞かせへの興味・関心を高めることができ、新たな人材の確保につなげることができた。
- 受講者へのアンケート調査結果

- 質問①：サピエ図書館や国立国会図書館と連携を行うことで、読書バリアフリーに係る多様な資料を提供できることについて理解が深まった。
- 質問②：公共図書館や学校図書館において、所蔵資料や視覚障がい者用資料を提供する方法についての理解が深まった。

|          | 質問① | 質問② |
|----------|-----|-----|
| とてもそう思う  | 71% | 70% |
| そう思う     | 27% | 28% |
| そう思わない   | 0%  | 0%  |
| 全くそう思わない | 1%  | 1%  |

※数値は第1回研修と第2回研修を合わせたもの。また、質問①、②とも「無回答」が1%。

## 課題

読書バリアフリー法の中に、「端末機器等・これに関する情報の入手支援(14条)、情報通信技術の習得支援(15条)・講習会・巡回指導の実施の推進など」があるものの、この部分はまだまだ手薄であることが課題。様々なツールや支援の方法があっても、障害者には知られていない(情報障害)。

## 事業のねらい

今回の研修では、「ICTを活用した読書サポートの体験」をテーマに、便利なアプリや機器の活用法を知ることが第一目的に据え、次にそれらをどのように紹介し、必要としている当事者などにサポートしていけるのかを参加者と一緒に考えていく。図書館員が知ることで、市民や障害者への認知にも繋がる。

・知らない  
・難しそう  
・不安

百聞は一見に  
如かず!  
試す・体験する

・意外と簡単  
・楽しい  
・便利



参加者自身が持つICT機器へのバリアを研修で取り払っていく!

## 実施内容

午前：読書バリアフリー法の概論、「視覚障害者」、「読み書き障害」当事者の困難、読みやすさを支援するお役立ちアプリや支援機器、サービスなどについて、**実演を踏まえた講義**。

午後：2グループに分かれ、2人に1台ずつiPadを渡し、アプリや機能などを、講師と一緒に試して体験するWS。



### ① 読書バリアフリー法について(講義)

／成松一郎〈読書工房〉



靴に取り付け、振動で方向を知らせる機器

普段、触れる機会がなかなか無い支援機器(点字ディスプレイやデジジー再生機)を参加者に回し、触れながら講義を行う。

### ② 視覚障害者用支援機器やサービス・アプリ(講義)

／松井進〈千葉県立西部図書館〉



靴に取り付け、振動で方向を知らせる機器

普段、触れる機会がなかなか無い支援機器(点字ディスプレイやデジジー再生機)を参加者に回し、触れながら講義を行う。

### ③ ICTによる読書サポート(講義)

／平林ルミ〈学びプラネット〉



iPadでテキストの読み上げ方法をレクチャーする

スライドで操作画面を映しながら、iPadの機能を解説。特別な作業をしなくても、簡単なステップで読み上げ機能を使える。

### ④ ワークショップ(体験) ⑤ まとめ・質疑応答

## 成果

### ○質疑・アンケートの実施により、課題や需要、今後の課題を集約

「ICTを活用した読書サポートの体験」を通じて、障害者の困難や、それを支える最新のツール・アプリ・サービスを分かりやすく伝えることができました。また、事前・当日・開催1か月後のタイミングで実施した申込者・参加者アンケートから、課題や需要、今後の課題などを集約することができた⇒当機構の読書バリアフリー普及事業に活かしていきます。

### ○誰でも無料で視聴できる動画を製作

研修内容の一部を分かりやすくまとめた動画を制作。今後も広報を進め、多くの方にご視聴いただきます。



[https://youtu.be/yq\\_pFslgzHE?si=flyk1V4tLf2PPLE](https://youtu.be/yq_pFslgzHE?si=flyk1V4tLf2PPLE)  
文字・活字文化推進機構YouTubeチャンネル

### ○昨年度との比較

|        | 参加者数/<br>アンケート回収率 | 満足度 |
|--------|-------------------|-----|
| 2022年度 | 16名/100%          | 92% |
| 2023年度 | 29名/72.4%         | 90% |

※昨年度より参加者が増加  
※アンケート回収率・満足度上げることが課題の1つ